

芦安小中白峰祭 中学生日記

先週土曜日、芦安小中白峰祭を開催しました。(コロナ禍ではありますが、3年ぶりに“観客制限なし”に開催しました。「コロナに負けない芦安郷育」ですから…)以前にも紹介しましたが、この行事は、昨年度まで行っていた中学校の白峰祭(学園祭の文化部門)と芦安小中文化祭の要素を取り入れた行事です。中学生から見ると、2つの行事に並行して取り組まなければなりません。しかし、取り組む時間は限られています。そこで、取組時間を確保するために、白峰祭に向けて特別日課で対応することにしました。また、全校制作を取りやめたり、展示物もふだんの学習の成果物を展示したりするなど、生徒の負担増にならないようにしたりしました。そのようにして創り上げた“シン・白峰祭”を、中学生の活躍を中心に、改めて振り返りたいと思います。

【展示の部】



(左)前日に展示した学習の成果物です。

(右)白峰祭当日、たくさんのみなさんに展示品を見ていただきました！



全校登山関係では、生徒が登山時に撮影した数多くの写真の中から、「人物部門」「動物部門」「植物部門」「景色部門」「珍部門」の5部門において、入選作品を掲示しました。

【開祭式】

昨年度の“芦安小中文化祭”にはなかった式です。今回は、学園祭的な要素を含むため、開祭セレモニーは必要不可欠なものとなりました。



[児童会・生徒会による寸劇]



[生徒会長による開祭宣言]

【小中合同太鼓 『勇氣』】



今年度より始めた小中合同太鼓の様子です。本来ですと、芦安中太鼓部として活動した成果を披露する場なのですが、生徒減少により芦安中単独での活動が不可能になりました。そこで、今年度より、小学4年生から中学3年生までの活動に切り替えて、練習を重ねてきました。太鼓講師の宗先生の指導の下、素晴らしい太鼓演奏を披露してくれました。今回披露したのは一曲でしたが、来年度はもう一曲増やしていきたいと考えています。

【中学3年生＋卒業生 『夜叉神太鼓』】



昨年度まで中学生が練習していた「夜叉神太鼓」ですが、小中合同太鼓として練習するにはレベルが高すぎました。しかし、昨年度までこの曲の練習に取り組んできた中学3年生のために、今回、卒業生の力を借りて披露することにしました。小中学生が披露した曲よりも、使用する太鼓の種類が増え、篠笛も加わり、演奏時間も長い曲でした。それでも、生徒たちが奏でる太鼓の音は夜叉神の自然の様子をイメージできるようで、もっと聴いていたい気持ちになりました。

【小学生の発表】



太鼓披露の後は、小学生の発表です。ダンスに、合奏、合唱を披露しました。小学生ならではの“かわいさ”もあり、たくさん練習してきた様子が伝わってきました。

【音楽部の発表】

前撮り演奏と生演奏で、音楽部の取組の成果を披露しました。

《埴原先生からの講評》

わかりやすい曲が並べられていて、小学生にもわかってよかったです。『手紙』、しっかり歌えましたね。会場がシーンとなりました。がんばったね。高音がとてもきれいに出了ましたね。これをチャンスにして、さらにがんばってください。



〔独唱・手紙を披露する生徒〕

【中学生の発表】

全校生徒で取り組んだ演劇『ちょっとだけ メロス』。何が、“ちょっとだけ”なのか、とても気になりました。劇が進むにつれて、「メロス＝自分勝手なわがままな人物」とわかりました。エンディングで、「みんな、ちょっとだけメロスなんだよ」というセリフが、とても印象的でした。お互いの自分勝手な部分を受け入れ、みんなで折り合いをつけながら生活する。ふだんの学校生活に通じるものがあると感じたのは、私だけでしょうか…。



〔前撮りの動画(セリフ入り)とライブ劇をうまく組み合わせて、一つの演劇としました。〕



【独唱・シトラスを披露する生徒】

《埴原先生からの講評》
しっかり歌えましたね。高音がよく出ていました。演奏前の「メロス」でがんばった後で大変だったと思いますが、さすがでした。



【イングリッシュ・スピーチを披露する生徒】

暗唱大会の時よりも、よい出来でした。音楽部や演劇の取組と並行しての取組でしたが、最後まで集中して発表していました。背面のスクリーンに和訳等を投影すると、もっとよかったという感想もいただきました。



【全校合唱・水平線】

《埴原先生からの講評》
難しい曲に取り組み、3人で合唱できるなんて、すごい。今回、一人一人が舞台上で発表していて、人の前で発表することに自信がついたと思います。よくがんばりました。

【閉祭式】



【夜叉神太鼓演奏に協力し、白峰祭を最後まで見届けてくれた卒業生のみなさん】



【生徒会長による閉祭宣言】



【代表児童生徒による感想発表】



【中学・小林校長の話】

これぞ 芦安郷育のストロング・ポイント

全校生徒が少ない芦安中学校では、白峰祭における生徒一人一人の役割が多かったです。やるが増え、忙しい毎日だったと思います。それでも、どの生徒もその忙しさに負けず、最後まで努力してくれました。その努力は、閉祭後の達成感・充実感となって味わうことができたのではないかと考えています。閉祭式の中で、「全部が楽しかった。」と発表していた中学生の感想を聞くと、充実した取組にできたのではないかと考えています。そんな中学生の姿を小学生のみなさんが見て、「中学生はすごい」「あんな中学生になりたい」と感じてくれたなら、小中合同で取り組んできた価値があります。また、小中学生が披露した合唱・合奏、独唱、演劇、展示物等から、芦安小中学校9年間の教育活動を通した「子どもたちの成長の様子」をはっきりと見ることはできたのではないかと思います。このような取組が「芦安郷育」のストロングポイントなのです。

運動会の取組から始まった2学期も、中間地点を過ぎました。3年生には、まだまだ芦安小中学校をよりよい学校にするために力を貸してもらいたいのですが、目指すべき進路に向けて自分の力を集中させる時期となりました。その3年生とともに全校登山や運動会、白峰祭等の取組を進めてきた1・2年生が、これからは3年生に代わり、リーダーとして芦安小中学校を引っ張る立場となります。私たち教職員は、これまで同様に、一人一人の生徒に寄り添った支援・指導を心がけていきたいです。

保護者・地域のみなさん、今後も芦安小中学校の教育活動に対するご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

